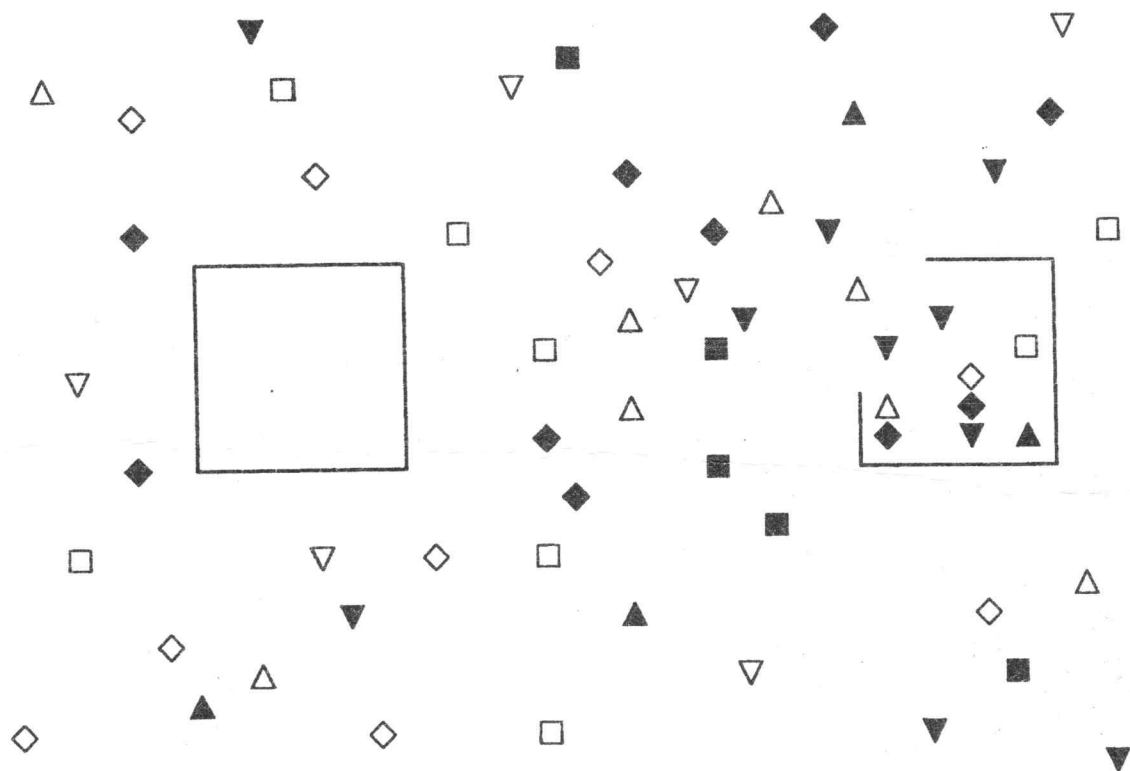


# 歌のコンサート

—— オペラの教室 '83 同窓会 ——



1992年 1月15日 (水) 1時半開場  
2時開演

新宿文化センター小ホール

## 歌のコンサート開催にあたって

オペラの教室 '83 同窓生一同

「見いさいな、見いさいな」宮川先生の稽古場でオペラの教室の「しゃくし売り歌」の練習に熱が入る。「自分の使う方言と違うので思い入れができない」と田辺がいう。「じゃあどう言うんだ?」「みさべ、みさべ、かな」稽古場に笑いが起こる。あれから8年、現代病におかされた田辺が28才の若さで亡くなった。当時のメンバーは今、それぞれの生き方で音楽・オペラと関わっている。皆、今でも多くの夢を持ち続けているがオペラの教室の頃は一番夢の多かった時かもしれない。田辺の死を前にあの頃の夢をもう一度思い出したくなってみた。今回のコンサートは、そうして忙しい中、皆で企画した。久々にあった人もいるが、お互い「昔と変わらない」と思った。今度集まれるのはいつだろう。今と変わらないだろうか。夢を持ち続けられるだろうか。まわりを見回してみる。きつといつも同じだろうな。

## 故、田辺夏夫君によせて

去年の春、私は一通の手紙をもらってその書き出しの言葉にガク然とした。  
「...生前、息子夏夫がお世話に...」夏夫君は確か28才、差出人は彼のお母さんからだった。彼が芸大音楽科在学中に体の調子をくずして郷里に帰ってから、時々手紙や電話をもらっていました。その後しばらく音信不通の時だったから尚更ギョツとした。彼は私が創立した「オペラの教室」の2期生であった。小太り、丸顔で、スポーツ刈りの頭で、明るくくったくの無い話し声。時に、小城2世みたいな子と、よく当時いろんな人に言われたものだった。個人的にも私の家へよく遊びにきて私の息子達に「田辺さんが笑うとうるさい!」とよく言われていたのを思い出す。彼の夢は高校の時から“オペラ小劇場こんにやく座”に入座することだったという。だから、1981年まで劇団こんにやく座代表だった私の教室に入ることは彼にとって、夢への第一歩だったんでしょ!その当時、「この教室はこんにやく座の養成所じゃなく、小城教室なんだよ!」とは彼に何度となく言っていたのだが、彼のお母さんが納骨式の時に「息子の手紙で『こんにやく座時代が一番楽しかった』とよく書いてありましたよ」と言われた時、何だか胸がつかまって「いいえ、あの時の教室は...」と言いかけてコトバをのんでしまった。それも今は供養かな?!と思ったからである。ピアノを弾くのがとても好きだった田辺くん、林光さんのソングをととても愛した田辺くん、好きな曲の話になると夢中になって人の話を横取りしてしまう田辺くん、怒るとチョッピリ幼児性が出てしまう田辺くん、色んな田辺くんの顔と声がすぐに思い出せる。今日は田辺くんが卒業公演で一緒にやった仲間たちがプレヒトの「セチュアンの善人」のソングをいくつか歌うことになった。きつと、どっかで聴いているでしょう!そして一緒に歌っていることでしょう!夏夫君!永遠に仲間だよ、僕たちは!!

オペラの教室主宰 小城 登

I 部

笠井志乃	オペラ「ヨシュア」より	ああ、私にユバルの竖琴があれば	ヘテル 作曲
池田朋子	歌劇「ルサルカ」より	白銀の月	ドボルジャーク 作曲
金子左千夫		告別	林光 作曲
可知美緒	「6つの小品集」より	インテルメッツォ	ラームス 作曲
梅村博美		わたしは咳	萩京子 作曲
堀部一寿	ミュージカル「マイフェアレディー」より	君住む街角	ロ- 作曲
小川えみ	歌劇「アイダ」より	勝ちて帰れ	ヴェルディ 作曲
杉野正隆		エルラフ湖	シューベルト 作曲
		献呈	R. シトラウス 作曲

休憩

II 部

雨の音楽	決して来ない聖者の日
運命のジャズ	飛行士なのあの人
舟唄	神々と善人たちの無防備状態のうた
ねがい	八匹めの象のうた
人と天の歌	帰りなんいざ
しっとのうた	雲の中からの三人の神々のうた
大砲のうた	
欠陥	
暗い晩	

伴奏 小城 登 ・ 長島 純子

構成 長島 茂

志乃

当時まだ学生で、歌を歌ったりピアノを弾いたり皆で騒いだり、忙しいフリをしながら結構楽しく過ごしてきました。今も相変わらず歌ったり弾いたり騒いだりしながら暮らしているわけですが——時には楽しんでばかりもいられない場合が多くなってきましたが——これからもゆっくりとしたあゆみではありますが、続けていこうと思います。

朋子

オペラの教室に在籍していた頃は、自分をかえたいと強く思い始めた時期で、私の出発点とも言えるものです。今も、発声前にこんにやく体操をしています。  
88年にリサイタルを開催して以来、「ことばと音のかかわり」をテーマに（夫の理解と協力に支えられ）マイペースで演奏活動を続けています。

左千夫

オペラの教室に参加していた20代の頃は、今の自分など想像するべくもない。今私は、人前で“うたをうたい芝居をする”ということをしごととしている。ちがう。“そのようなことをしごとにしたいなど願っている”34歳にならんとする、よるべなき独身青年となった。「好きなことをやれてほほほの」挨拶もゆがんできた。そして「え、あ」とあたふたし、こどもたちの前なんかで、うたをうたったりすべったりころんだりしている。  
・・・何をしてきたのか。少しは成長できたか。確かめたくて参加させていただいた。日々のコトゴトに追われ、だから、今日の準備になにも参加できなかった。本当に申しわけない。

美緒

オペラの教室では歌と芝居を勉強していましたが、最近はおっぱらピアノを弾くことに励んでいます。歌っているようにピアノを弾きたいという思いで、うたの伴奏に室内楽にと活動中です。

博美

中学2年にこんにやく座の公演を観ました。その後上京しこのオペラの教室に出会い、こんにやく座との再会がありました。  
そう、私の青春時代（今も青春真っ只中ですから第1期）の思い出＝「オペラ」の教室です。今？ こんにやく座に居ります。m.

一寿

東京に生まれ育つが、地方での音楽活動に興味を持ち、茨城に移住。現在はつくばしに音楽教室を開講。オペラ、ミュージカルが好きで自分でも企画を行なうが、お呼びがかかればどこへでも飛んでいく。  
アマチュアのミュージカル劇団「アルテ」や、キャンプ場を使っての野外オペラ「ラ・ボエーム」などの仕掛人として、また今年5周年を迎える“つくばオペラ・フィオーレ”の事務局長として、つくばの文化発展に尽力している。  
どこへ行っても女性との活動が多くもてる。・・・と思込んでいる。

えみ

オペラの教室時代はバクハツしていました。その後、ある時は学校の先生、又ある時は発掘、又ある時はパルマ怪人、しかしてその実態は。・・・燃えるソプラノ歌手！！

正隆

「オペラの教室」に通っていた時期の事を思い出すと、あの頃はとても楽しい寄り道をしていたなあと思われてくるのですが、今だって随分と変な所をさまよっているなあと思ってみたりもする今日この頃です。